～最新技術の活用による鳥獣被害対策及び生息状況調査実証事業～

〔令和4年度実施地区〕 朝日町 大谷地区

■ 実施体制
●実施主体：地区住民
●アドバイザー：小野 晋 氏(株式会社 地域環境計画)

■地区のプロフィール
●地区内の世帯数：２４２世帯
●主な被害作物：水稲、りんご、ぶどう（R3被害面積約38a）
●主な加害鳥獣：イノシシ、ツキノワグマ

1．取組のきっかけ

● 大谷地区は、稲作と果樹を中心とした集落で、これまではツキノワグマによる果樹の食害に悩まされてきたが、近年はイノシシによる農作物被害や農地の掘起し被害が増加してきた。
● 令和２年度は、水田への侵入や稲の踏み倒し等水稲被害の急激な増加と、果樹園地での掘起し被害も続き、農業者の収入減や営農意欲の低下、居住区域内へのイノシシ出没への不安を招いている状況であった。
● これまでは、鳥獣被害対策実施隊による捕獲や個人での対策を講じてきたが、大きな圃場を個々で守るだけでは地域全体への侵入や被害が軽減できないという思いから、地域全体でイノシシ対策を講じていくべきという機運が高まり、今回の取組に至った。

2．取組の内容

●今年度取組についての打合せ
地域の農業組合員、鳥獣被害対策アドバイザー、県、町が集まり、本事業の説明、大谷地区の被害、対策、捕獲状況や今後の方針、研修会について打合せを行った。

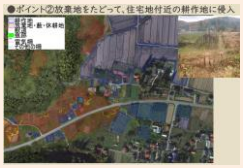
●ドローン調査の実施（１０、１２月）
地区周辺において集落環境点検（昼）及び生息状況調査（夜）を実施した。集落環境点検では、撮影した静止画からリアルタイムの航空写真を作成し判読した結果、放棄地、藪地等でイノシシの獣道が確認された。生息状況調査では、3箇所の樹林内において、５～9頭のイノシシの群れが撮影された。

●被害対策研修会（全３回）
イノシシの生態と被害対策について講義を受けたのち、ドローン調査結果及び地域住民のイノシシ目撃、被害情報を1枚の地図に集約したうえで、アドバイザーからの今後の対策提案を受け、地域住民主体で進める対策について意見交換を行い、今後の計画を策定した。

●ＩＣＴわなによる捕獲実証試験
ＩＣＴわな（捕獲通報システム）を活用した捕獲実証試験の結果、今回の捕獲試験では捕獲は無かったものの、見回りの時間の調整ができたところは、省力化になった。

ドローン調査の様子

被害対策研修会の様子


調査結果のGIS地図化

3．課題と今後の展望

大谷地区中央の広域水田地帯の山際には広域電気柵を設置する方向で調整を続けることとなった。周辺の小規模な耕作地や東部の果樹園は、耕作地と休耕地、藪が入り混じっているため、広域柵ではなく個別の電気柵を設置することとした。また、住宅地周辺の放棄地までイノシシの痕跡のある地域では、藪の刈り払いで緩衝帯をつくることが話し合われた。今後、これらを進めることでイノシシが寄り付かない集落づくりを目指す。